

申込締切
7月22日

ウクライナに一緒に緒しましょう。

農業技術通信社主催「Made by Japanese」 in ウクライナツアー

木村慎一氏と行く 農業強国 ウクライナの 大豆・コメ・野菜・施設視察ツアー



ウクライナで大豆生産に取り組んでいる木村氏一行（右端が木村氏）。

旅行期間 2010年8月24日(火)～8月31日(火) 6泊8日

日次	月日	都市名	時刻	交通機関	予定スケジュール	食事
1	8月24日(火)	東京(成田)発 モスクワ着 モスクワ発 キエフ着	12:00 17:25 21:50 22:40	SU528 SU185	空港ターミナル移動 着後 ホテルへ 【キエフ泊】	昼:× 夜:機内食
2	8月25日(水)	キエフ 終日		専用バス	★ウクライナの農業の理解を深める★ キエフ市内 観光及び 農業関連視察 ユネスコ世界遺産の「ソフィア大聖堂」見学 現地の「日本大使館」「ウクライナJICA」から 現地の農業事情、農業投資情報についてレクチャー(予定) スーパーマーケット、地元市場視察	朝:○ 昼:○ 夜:×
		キエフ 発	17:51	夜行列車	ヤルタに向けて出発(寝台列車) *列車の車窓から大穀倉地帯を見学 【寝台車泊】	
3	8月26日(木)	シンフェロポリ 着 ヤルタ	8:50	専用バス	★ウクライナの自然、歴史の理解を深める★ 到着後ワイナリー見学 ヤルタ会議が行われた「リヴァーディア宮殿」見学 「白亜のお城ツバメの巣」見学 【ヤルタ泊】	朝:○ 昼:○ 夜:×
4	8月27日(金)	ヤルタ シンフェロポリ 郊外		専用バス	★ウクライナでの大規模畑作の可能性を探る★ ヤルタ出発しバクチャライを経由して大規模農場視察 木村慎一氏の提携農場(面積10,000ha農場、農場主 アンドリー氏、サッカー場も所有)を訪問 小麦やとうもろこし、リンゴ、コリアンダー、蜂蜜など 多様な農産物を生産 「クリミア農業大学(ウクライナを代表する農業研究学術 機関、小麦中心の6,000haの試験農場)」視察 【シンフェロポリ泊】	朝:○ 昼:○ 夜:×
5	8月28日(土)	シンフェロポリ シンフェロポリ 郊外 ジャンコイ		専用バス	★日本人の稲作進出の実用性を検証★ 水田農家(面積2,300haのうち稲作1,800ha)、農場に併設 された「調整精米所」を視察 麦を中心に生産する農場(面積17,000ha、他100haのタマ ネギ畑で80t/ha以上を生産。農場主セイチュメル氏)を訪問 とうもろこし、小麦、菜種、大豆を生産する農場(面積 4,000ha大豆は4t/haの高い生産性を持つ。農場主ワレリ氏) を訪問 【ジャンコイ郊外泊】	朝:○ 昼:○ 夜:×
6	8月29日(日)	ジャンコイ 郊外 ジャンコイ 郊外		専用バス	シンフェロポリ近郊の施設農家(キュウリ、トマト)視察 ウクライナの保養地見学(海水浴場)など 一路 モスクワへ	朝:○ 昼:○ 夜:×
		シンフェロポリ 発 モスクワ 着	20:10 23:20	SU700	【モスクワ泊】	
7	8月30日(月)	モスクワ 発 モスクワ 着	19:40	SU581	モスクワ市内観光 【機中泊】	朝:○ 昼:× 夜:機内食
8	8月31日(火)	成田 着	10:00			

※視察先は、6月中に木村慎一氏が現地に調整を行ないます。予定は変更になる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

参加費用
488,000円

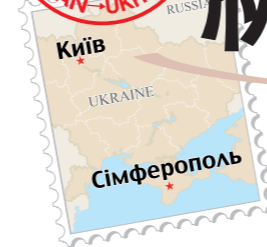
※旅行代金には成田空港施設使用料、現地空港税、燃油サーチャージ、ロシア査証取得代など渡航手続き料金は含まれておりません。

- 旅行期間：2010年8月24日(火)～8月31日(火)
- 添乗員：添乗員が成田から帰着まで同行します。
- 通訳：現地の全行程通訳スタッフが同行します。
- 食事：日程表記載の食事が含まれます。
- ホテル：2名1室利用
- 航空会社：SU(エアフロート) 利用予定
- 最小催行人数：15名
- 研修企画：株式会社 農業技術通信社
- 旅行手配：JTB首都圏 法人営業新橋支店 〒105-0004 東京港区新橋1-18-16 日生新橋ビル5F 担当者：内田喜久
- TEL：03-3504-0794 FAX03-3502-3169

お問い合わせ：(株)農業技術通信社 農業経営者 読者の会 事務局
TEL:03-3360-2697 FAX:03-3360-2698 E-mail:customer@farm-biz.co.jp

海外での生産に関心の有無に関わらず、国際的な視野で農業に取り組む経営者・企業の方々とお仲間になる機会です。世界と勝負する農業経営者・木村慎一氏が自身のウクライナ大豆農場ほか現地の先進農場、研究施設、マーケットをご案内します。本誌ホームページ上 (<http://www.farm-biz.co.jp/tour/form>) で資料請求または申し込みも可能です。ビザ取得の関係上、申込締切を2010年7月22日(木)とさせていただきます(担当：昆和子)。

2010.SUMMER
8月24日～8月31日
JAPAN→UKRAINE



編集長からの手紙

木村慎一氏と目指すウクライナでの Made by Japanese

拝啓 読者諸兄

「農業経営者」編集長の昆吉則でございます。

本誌にとどまらずNHKスペシャルでも何度も紹介されている木村慎一氏のウクライナでの Made by Japanese への取り組みは、皆様よくご存じのことと思います。本誌では、木村慎一氏に案内役をお願いした「木村慎一氏と目指すウクライナでの Made by Japanese」をテーマとする視察ツアーを企画いたしました。

木村氏は青森の津軽で若くして友人たちと大規模畑作農業経営を目指した黄金崎農場を設立。国内最大の450haの農場を設立したメンバーの一人です。その後、黄金崎農場の経営を離れ、現在はご子息とともに家のあるつがる市周辺の農地だけでなく自宅から100km以上も離れた上北地区にある畑を借り約150haの農業経営を行なっています。作物は麦、大豆、コメ、そしてリンゴ栽培にも取り組んでいます。同時に、自宅周辺のエリアでは地域のコメ作りを支援するために乾田直播の技術指導も行なっています。

そんな木村氏は2007年からウクライナでの大豆栽培に取り組んでいます。そのきっかけはフランスでの展示会を視察した帰りに寄ったウクライナの土と農業を見たからでした。そこで出会ったウクライナ大豆協会の会長との縁で、翌年に青森での品種を大豆協会会長の畑に少量だけ播いてもらった。すると、全くの無肥料で作ったにもかかわらず、人の背丈ほどに大豆が育った。気象の違いからか実は全く着きませんでした。その成長に木村氏は世界一の肥沃土チェルノーゼムの力を感じ、農民魂が震えたと言います。

その翌年からまず300haの土地を借りて大豆作りを現地の農家と契約栽培する約束をしました。しかし、折からの穀物高騰、農地の貸し手は前言を翻して、3haの農地しか貸さないといい始めた。ウクライナが世界の農地争奪戦が進む地域として注目を集めたのと同じ時です。

その相談を受けた僕は、現地に出先のある商社関係者などに協力を求めました。しかし、多くの人々は、ウクライナの政情不安や経済不安を理由に二の足を踏むだけでなく、口約束だけで仕事に取り組み始める木村氏の「無謀さ」を暗に批判しました。彼らは国際ビジネスのプロであり、その話には説得力があります。

しかし、その話を聞きながら木村氏は豪快にガハハと笑い、「皆さんは私が裏切られたと言うかもしれないけど、ウクライナだろうが津軽だろうが、農民が自分の土地を人に貸すなんてことはそんなものだよ。一年や二年でできることではなく、まずはその信頼関係を作ることですよ」と言い放った。僕は木村氏のこの言葉と生き方に、そこにこそ農業で進める Made by Japanese の本質があると思いました。

農業といえども言うまでもなくビジネスです。ましてや文化の違う海外。契約内容は厳しくチェックされるべきでしょう。でも、そこに農民同士の信頼感があればこそ、よその国での農業がうまくいくのです。

さて、木村氏は Made by Japanese を進めるべくウクライナ全土を視察してきましたが、木村氏の報告では黒海周辺のエリアでの水稲作に注目したいとのこと。僕の意見としても将来的に Made by Japanese で最も可能性が大きいのはコメだと考えています。農業経営者の皆様だけでなく、農業での海外投資にご関心をお持ちの投資家や関連企業関係者の皆さまの本誌ツアーへのご参加をお待ちしております。

「農業経営者」編集長 昆吉則